

保育科学生の保育意識

山 口 孝 道

A Consciousness Concerning Nursery Care of Students in Nursery Course

Takamichi Yamaguchi

1 調査目的

現代社会の価値観の多様化は、青年の意識にも影響なしとしない。人間形成に全面的にかかわる保育者を志す保育科学生の保育意識は果してどうだろうか。今後の教育課程の編成や学生指導等の参考にすべく実施した。

2 調査時期

1984年2月1日から10日にかけて実施した。

3 調査の対象

本学保育科2年生227名を対象とし、調査用紙を全員に配布、回収した。回収数は198名で、回収率は87%であった。

4 調査方法

1980年全国保母養成協議会が行った「保育学生の意識調査」(多肢選択式)の意識調査項目を用い、無記名記入とした。

5 調査の結果および解釈

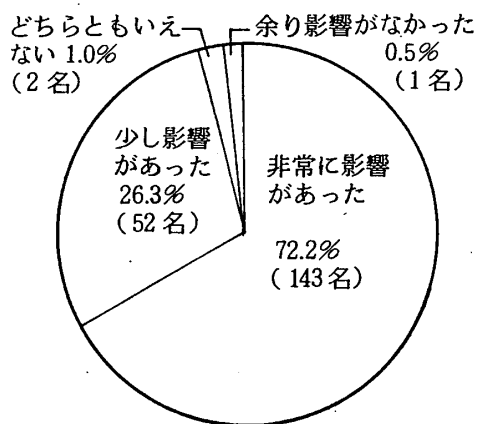


図1 保育科入学に伴う保育意識への影響

問1 「保育科に入学したことにより、保育者になるために何らかの影響があったと思いますか。」

図1の通り「非常に影響があった」が72.2%で最も多く、「少し影響があった」26.3%を加えると98.5%の者が影響を受けており、「どちらともいえない」「余り影響がなかった」者が併せて1.5%で、「全く影響がなかった」と回答した者は0%である。

2年間の教育で98.5%の者が影響を受けたと答えていることは、保育科の存在意義を裏づけるものとして評価できる。

問2 「前の問1で、非常に影響があった、少し影響があったと答えた方は、どんな影響があったと思いますか。次の項目のうち、主なもの3つ以内選んで下さい。」

図2にみられるように、「子どもの理解が深まった」が90.8%で第1位、第2位は「保育観が形成された」72.3%、第3位は「集団的な子どもの指導法がわかった」36.4%、次いで「自分の生き方が確かになった」35.9%で、基本的な人間形成の面での影響が高く、「学習態度が身についた」は2.6%で最下位となっている。

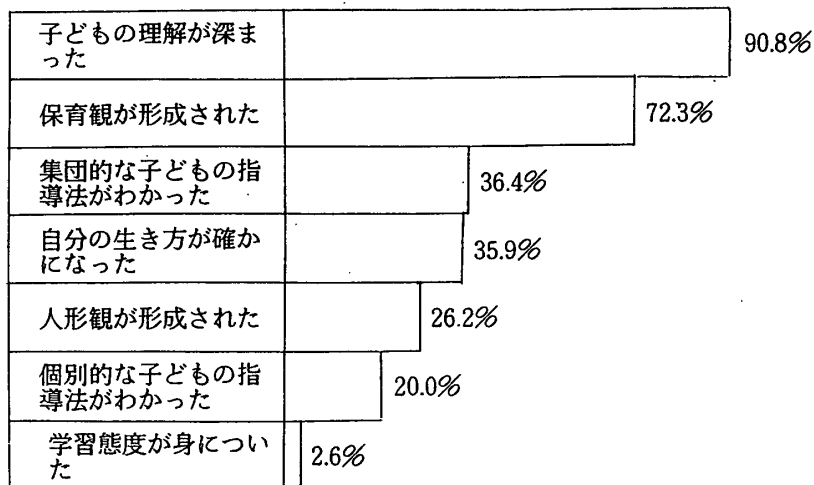


図2 保育意識の変化の内容

問3 問1で、非常に影響があった、少し影響があったと答えた方は、つぎの項目のうち主にどの項目で影響を受けたと思いますか。主なものを3つ以内選んでください。」

「保育実習」が95.9%の高率を占め、ついで「専門教育科目」85.1%、「友人との話し合い」57.9%で、「一般教育科目」は4.1%で第7位となっている。しかし問2で基本的な人間形成に関する面での影響の高さからみて、軽視されるべきでなく、学生にとって一般教育科目の重要性の認識を高めるよう内容の十分な検討が望まれる。また、「クラブ活動」「ボランティア活動」についても、もっと活発に行われるよう意識化をはかっていくべきであろう。

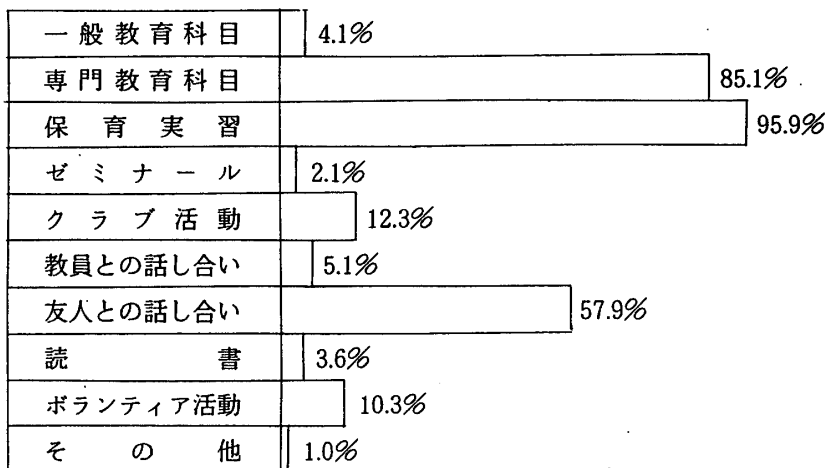


図3 強く影響を受けた教育内容

問4 「保育者になるために、特に影響を受けたと思われる専門教育科目を3つ以内選んでください。」

問3と同様「保育実習」が95.5%と高率を占め、「保育内容系科目」58.6%、「福祉系科目」53.5%の順となっている。「保健系科

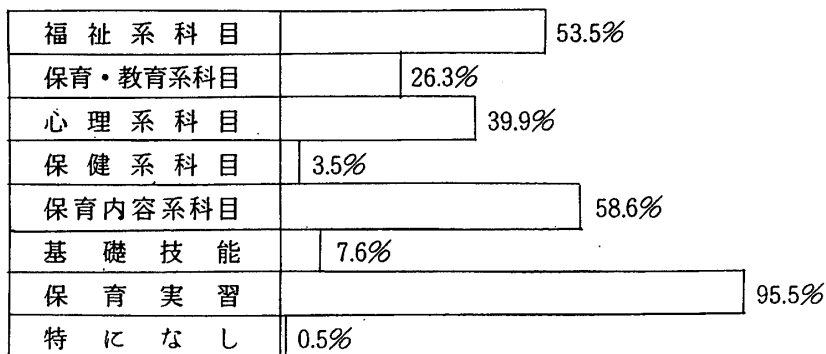


図4 特に強い影響を受けた専門教育科目

目」「基礎技能系科目」はその重要性にかかわらず低いのは、基本的な人間形成、人間観の形成とかに直接かわりのないものと感じたためかと思われる。

問5 「保育実習の履習によって、あなたは何を学びましたか。主なものを3つ以内選んでください。」

図5にみられるように、「保育のむずかしさ」・「保育の重要さ」を82.8%,61.1%と1, 2位にあげられたことは、真剣に保育に取り組む姿勢、態度を学んだことを意味づけるものと解され、今後の学習の動機づけともなるであろう。

保育のむずかしさ	82.8%
保育の重要さ	61.1%
指導の方法	38.4%
子どもの発達差についての理解	32.8%
保育者の仕事	26.3%
保育環境の重要さ	22.2%
子どもの生活の理解	19.2%
職場の人間関係	9.1%
人間観に影響受けた	4.0%
その他	2.0%
保護者との関係	1.5%

図5 保育実習によって修得したもの

問6 「教員との交流に期待するとしたら、それはどんなことですか。主なものを2つ以内選んでください。」

問3で、保育者になるために影響を受けたと回答した中で、「教員との話し合い」が5.1%ある。教員との交流への期待として、「保育技術の指導」が62.1%と第1位を占めているが、「人としてのふれあい」55.1%、「人間観、世界観の形成」30.8%と第2位、第3位を占めていることからみて、教員との人間的な交流を強く求めていることが示唆される。また、「進路の相談」が21.2%とみられることから、われわれ教員、大学側も十分考えるべき問題を含んでいると思う。

保育に関する理論的指導	17.2%
保育技術の指導	62.1%
人間観、世界観の形成	30.8%
勉強の仕方	2.5%
一身上の相談	0%
人としてのふれあい	55.1%
進路の相談	21.2%

図6 教員との交流で望むもの

問7 「保育者の資質として重要と思われるものは何ですか。5つ以内選んでください。」

知性、行動力、性格、生活態度、対人関係に関する選択肢24項目を順序不動に配列し選択させた。結果は図7の通りである。

知性に関する項目では、「子どもの正しい見方」「創造力」が40%台を示し、「判断力」「子どもを導く理念」「理解力」とつづき、「福祉の正しい理解」が13.1%と低いのは考えさせられる問題である。

行動力に関する項目では、「活動力」「指導力」が44.9%, 31.8%を占め、「自主性」「忍耐強さ」がその約半数の17.2%, 16.2%となっており、特に「自主性」については現時点では高く評価されていない。

性格に関する項目では、「明朗さ」が86.9%と圧倒的に高く、「感受性」が15.7%、「意志の強さ」が9.6%となっている。

生活態度に関する項目では、「しっかりした生き方」「誠実さ」が13.6、12.6%で、「清潔さ」「生活態度の着実さ」「公共のものを大切にする」は10%以下となっている。

対人関係に関する項目では、「包容力」が28.8%、「ユーモア」が11.1%、「協調性」「礼儀正しさ」は10%以下となっている。

選ばれた資質からみて、陰気でなく明るく活動的であり、子どもを正しくとらえ、創造力、判断力、指導力を備え、しかも包容力のある保育者像が描かれているようである。

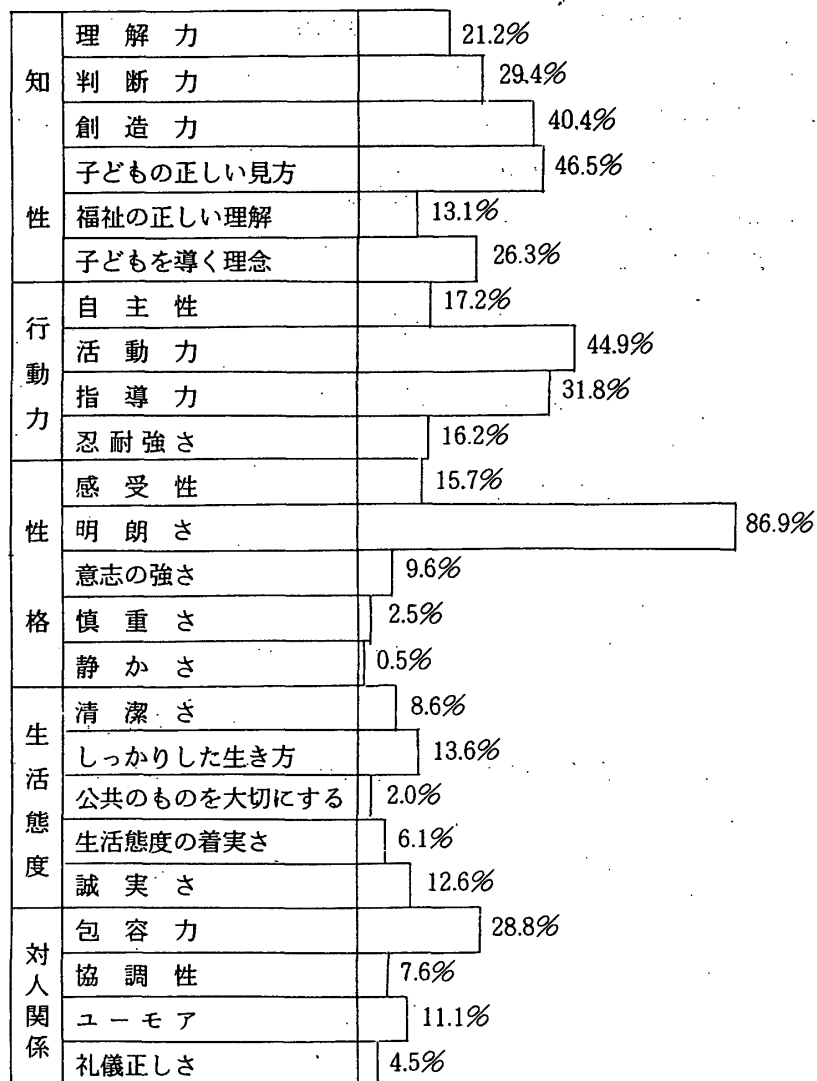


図7 保育者の資質として重要なもの

問8 「できたらどこに就職したいと思っていますか。主なものを1つだけ選んでください。」

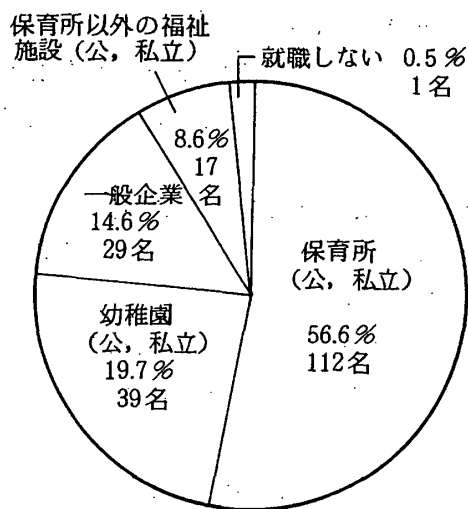


図8 希望する就職先

調査の時期が2月初旬で、既に就職先が決定(内定)した者もあるが、就職希望をみると、図8にみられるように、保育所、幼稚園、保育所以外の福祉施設が併せて85%あり、保育科で専門的に学習したことを生かしたいとの希望の強さがみられる。

問9 「問8の理由はつぎの項目のどれですか。主なものを2つ以内選んでください。」

「子どもとの接触が十分できる」が71.2%で1位を占め、「教育的、福祉的意義がふかい」が併せて61.1%で、「給料が良い」「自分の時間がとれる」「就職しやすいから」は10%以下となっている。

子どもとの接触が十分できる	71.2%
就職しやすいから	8.6%
給料が良い	4.0%
自分の時間がとれる	8.6%
教育的意義がふかい	36.4%
福祉的意義がふかい	23.7%
その他	16.2%

図9 就職希望の理由

問8と問9をまとめてみると、表1の通りである。

表1 就職希望先と就職希望の理由との関係

問9 \ 問8	保 育 所 実数 (%)	保育所以外の福祉施設実数(%)	幼 稚 園 実数 (%)	一 般 企 業 実数 (%)	就職しない 実数 (%)
子どもとの接触が十分できる	108 (96.4)	5 (29.4)	28 (71.8)	0 (0)	
就職しやすいから	7 (6.3)	2 (11.8)	1 (2.6)	7 (24.1)	
給料がよい	2 (1.8)	1 (5.9)	0 (0)	5 (17.2)	
自分の時間がとれる	0 (0)	1 (5.9)	4 (10.3)	12 (41.4)	
教育的意義がふかい	36 (32.1)	2 (11.8)	31 (79.5)	3 (10.3)	
福祉的意義がふかい	34 (30.4)	15 (88.2)	0 (0)	0 (0)	
そ の 他	12 (10.7)	9 (52.9)	6 (15.4)	11 (37.9)	1

保育所希望の者は、「子どもとの接触が十分できる」が96.4%と高率を占め、「教育的、福祉的意義がふかい」とつづき、保育所以外の福祉施設希望者は、「福祉的意義がふかい」が88.2%で、「子どもとの接触が十分できる」が29.4%となっているのは、勤務体制からの判断からだろう。幼稚園希望者は、「教育的意義がふかい」「子どもとの接触が十分できる」が72%から80%と高い。一般企業希望者は「自分の時間がとれる」41.4%で、「就職しやすいから」「給料が良いから」が他に比べて高い理由になっている。希望の動機の差がはっきりわかれていることがわかる。

問10 「就職に当って心配することはどんなことですか。主なものを3つ以内選んでください。」

図10にみられるように、「指導の仕方」76.3%、「子どもとの接し方」43.9%と、1, 3位を占め、指導の方法、技術的な面が心配の中心をなしており、ついで「職員関係」「保護者との関係」が52.5%、28.3%と人間関係への気苦労がみら

健 康	25.3%
子どもとの接し方	43.9%
指導の仕方	76.3%
研修・研究	13.1%
職員関係	52.5%
保護者との関係	28.3%
園のあり方	19.2%
障害児保育	8.1%
経済状態	3.5%
結婚生活	1.0%
その他	4.0%

図10 就職に際しての不安の内容

れる。「経済状態」「結婚生活」は5%以下である。

保育所、保育所以外の福祉施設、幼稚園希望とも「指導の仕方」が85～90%、「職員関係」が51～56%と1，2位を占めている。ついで、保育所は「子どもとの接し方」52.7%、「保護者との関係」30.4%、「園のあり方」23.2%、「健康」17.9%の順になっている。保育所以外の施設では、「園のあり方」41.2%、「健康」35.3%、「子どもとの接し方」「障害児保育」29.4%

で、保育所に比べて「園のあり方」「健康」「障害児保育」への心配が増加しており、幼稚園では、「保護者との関係」への心配が46.2%と高くなっている。一般企業では「健康」「職員関係」が51.7%と一番高く、ついで「研修・研究」が20.7%、「経済状態」が13.8%と他に比べて高い。「健康」が一番高いことは健康上の心配からか、また、指導の仕方」17.2%、「子どもとの接し方」13.8%みられることは、一般企業へと希望変更した理由の裏返しとも考えられる。

表2 就職希望先と就職に対する不安との関係

問8 問10	保 育 所 実数 (%)	保育所以外の福祉施設 実数 (%)	幼 稚 園 実数 (%)	一 般 企 業 実数 (%)
健 康	20 (17.9)	6 (35.3)	9 (23.1)	15 (51.2)
子どもとの接し方	59 (52.7)	5 (29.4)	18 (46.2)	4 (13.8)
指導の仕方	99 (88.4)	15 (88.2)	33 (84.6)	5 (17.2)
研修・研究	11 (9.8)	2 (11.8)	6 (15.4)	6 (20.7)
職員関係	62 (55.4)	9 (52.9)	20 (51.3)	15 (51.7)
保護者との関係	34 (30.4)	3 (17.6)	18 (46.2)	1 (3.4)
園のあり方	26 (23.2)	7 (41.2)	5 (12.8)	0 (0)
障害児保育	9 (8.0)	5 (29.4)	2 (5.1)	0 (0)
経済状態	1 (0.9)	1 (5.9)	1 (2.6)	4 (13.8)
結婚生活	1 (0.9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
そ の 他	1 (0.9)	1 (5.9)	2 (5.1)	6 (20.7)

6 まとめ

本調査を通じて得られたことは、第一に、保育科の設置目的である保育者養成の目的が達せられていることである。

第二に、学生は実践的な指導技術の習得を必要視していることである。実践的な指導技術の習得もさることながら、その基礎をなす人間観、保育観、幼児の発達理解等、保育者としての哲学を持つべく指導はあらねばと思う。

全国保母養成協議会の結果に大筋としては共通した傾向が得られた。

昭和59年6月6日、文相の諮問機関である大学設置審議会大学設置計画分科会が、「昭和61年度以降の高等教育の計画的整備について」と題する報告書を提出した。本学でも、今後の社会情勢の変化に対応した短大の在り方を検討していく必要から、6つの分科会からなる将来問題検討委員会を設置（昭和59年9月）、第1分科会でカリキュラムの開発を重要課題として取上げ検討を進めている。本調査結果も、保育科のカリキュラム検討の参考にしたいと考えている。

(1984年9月30日受理)

参考文献

全国保母養成協議会 1981 保母養成資料第18号 日本保育協会